

4 島の自然を守り、生かし、未来へ

2021年7月26日、奄美大島・徳之島・沖縄島北部・西表島の4島がユネスコの世界自然遺産に登録された。この島々はかつてユーラシア大陸と陸続きだったが約200万年前に地殻変動などによって大陸から切り離された。それから現在の島々へと分かれていった。

大陸では、同じ種やそれに近い種は氷河や天敵などによって絶滅したが、これらの島々では天敵がいなかったり少なかったりした事から生き残ることができ、多くの遺存固有種が生き残る事が出来た。又、大陸から切り離されたあと、これらの島々では進化をとげ種へと分化した生物も多く、新固有種と呼ばれるようになった。

奄美大島と徳之島の島の広さは、この二つの島を合わせても日本全体の0.26%しかない島々で両生類の9割、陸生哺乳類と爬虫類の約6割がここでしか見られない固有種です。

今から10数年前に奄美大島の森へ案内を頼んできた3名の方がいた。私は、事情を知らないまま、山の奥へと案内し島の自然をいろいろと説明した。ところが途中で自然遺産の話をはじめ協力を求めてきたユネスコの方々だった。奄美大島を世界自然遺産にする為に下見に来島したことを打ち明けてくれた。私自身自然保護を訴え続けた人間でもあるので、渡りに船だと考えありがたく思った。つまり奄美大島を遺産にしたい、しなければと言い出したのはユネスコでもある。ユネスコはじめIUCNも、目的はこれら琉球弧の自然の保護であり、同時に遺伝子の保護である。ユーラシア大陸で絶滅してしまった生き物たちがこの四つの島々で今もこの時代に生息している。又、四つの島々でもそれぞれに多くの違いがみられ島の特徴があり、4島一括で自然遺産したのはうなづける。

これまで自然保護と言うといろんな意味で誤解を受けてきた。今回の世界自然遺産はさまざまな事を我々島民に教えてくれた。奄美大島の自然その仕組み、この島の本当の宝は何なのか、そして、奄美大島の未来はどうあるべきか、どこに行けばいいのか、多くの課題と方向性、そして、答えを未来と教えてくれた。

この島の多くの遺産と同時に未来の可能性、この島の経済、子供たちの未来、大人は観光(経済)も本気で考えてほしい。そして、その答えは自然を守るという事でしか何も始まらない。

我々島民は、今一度島の自然を学び守り、そしてそれを未来へ生かして欲しい。リゾート化するのではなく徹底的に自然を守り失った自然、特に集落のコンクリートの護岸の自然工法を取り入れた再生事業を始めるべきである。失った自然を取り戻し残った自然は徹底的に保護するという事を始めてもいい。そして未来に多くの本物を残してほしい。それは結果として世界中から奄美大島の自然、本物を求めて訪れることになる。

保護の一方でこれらの自然を生かした観光も考えなくてはいけない。島の経済は観光なしには、自然保護なしには語るができない。いろんな人に良く島の観光の未来の事を聞かれる。私の答えは、大丈夫だと答える。多くの自然が残っているこの島は、自然という多くの観光資源が残っている。これらの資源を守り、生かし未来へ将来へと繋げていくのが我々今を生きる島民の義務ではないだろうか。

島の自然は地球レベルでオンリーワンであり、観光も世界を目指すべきである。これまでも多くの外国人もこのオンリーワンの自然(本物)を体験する為に、世界から来島している。

世界自然遺産をきっかけに我々島民は、過去を知り未来に向かってその方向性を大きく変える時に来ている。なぜなら、この島の自然は世界でもオンリーワンの島だから。

常田 守 (自然写真家、奄美在住)